

## 日本温泉気候物理医学会との連携

研究分担者 堀内 孝彦

一般社団法人日本温泉気候物理医学会 理事長

### 研究要旨

厚生労働科学研究費補助金「温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究」（研究代表者 山崎聡先生）によって蓄積・整理される「温泉療法による健康増進効果のエビデンス」について、学会として積極的に情報発信を行い、広く学会員および関連領域の専門職との共有を図る。そのため、学術集会におけるシンポジウム・教育講演・一般演題等での発表機会を継続的に設けるとともに、学会誌、ニュースレター、広報誌、Web媒体等を通じて研究成果をわかりやすく発信する体制を整備する。さらに、研究成果を体系的にまとめた成果物やガイドブック等の出版・頒布についても学会として支援を行う方向で理事会の承認を得る。

また、本研究を契機として、厚生労働省、環境省、関連自治体との連携を強化し、科学的根拠に基づく温泉医学・温泉利用指針のアップデートを推進する。加えて、研究班、行政機関、関連学会との横断的な協力体制を構築し、医療・保健・観光・地域振興など多分野との連携を深めながら、温泉利用の社会的価値と健康増進効果に関する最新知見を広く社会へ還元する。さらに、温泉地の医療機関、温泉施設、自治体、観光関連団体、健康産業等との連携を通じて、研究成果の実装や標準的プログラムの普及を目指す。

### A. 研究目的

近年、温泉利用が健康増進や疾病予防、生活の質（QOL）の向上に寄与する可能性が広く注目されている。しかしながら、温泉療法の有効性については経験的・伝統的知見が先行しており、医科学的エビデンスの体系化や標準化は十分とは言えない状況にある。そのため、厚生労働科学研究費補助金「温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究」（研究代表者 山崎聡先生）では、温泉利用による健康増進効果を科学的に検証し、標準的な温泉利用プログラムの構築を目指して研究が進められている。

日本温泉気候物理医学会は、本研究によって得られる最新の知見とエビデンスを学会員のみならず、関連分野の専門職、行政、地域社会へ広く共有することを重要な使命と位置づけている。特に、温泉医学の学術的発展と社会実装を進めるためには、研究成果を単に発表するだけでなく、医療、保健、観光、地域振興等の多分野と連携しながら活用可能な形で社会に還元していくことが求められる。

そこで本取り組みでは、学術集会、学会誌、広報誌、Web媒体等を通じた継続的な情報発信体制を整備するとともに、研究班、行政機関、関連学会との連携強化を図り、温泉療法の標準化と普及促進を目的とした活動を行うこと

を目的とした。

### B. 研究方法

本取り組みでは、厚生労働科学研究班によって得られた研究成果を学術的・社会的に展開するため、以下の方法を実施した。

第一に、学会との連携体制を強化するため、学術集会において温泉医学および温泉療法に関するシンポジウム、教育講演、一般演題セッションを企画し、研究成果を発表・討論する機会を設けた。今後は、研究班の成果を紹介する目的で、学会誌や広報誌に特集記事を掲載し、研究成果を体系的に紹介する計画である。さらに、学会ホームページやニュースレター等を活用し、学会員への継続的な情報提供を行っていく予定である。

第二に、研究成果の普及と社会実装を推進するため、厚生労働省、環境省、地方自治体、関連学会との情報交換・協議を行い、温泉医学に関する最新知見の共有と行政施策への反映可能性について検討した。また、温泉地の医療機関、温泉施設、観光関連団体等との連携を進め、標準的温泉利用プログラムの普及に向けた意見交換を行った。

第三に、一般社会への知見還元を目的として、市民公開講座や研修会等の開催を企画し、エビデンスに基づく安全で効果的な温泉利用

について啓発活動を行った。加えて、研究成果をまとめた成果物やガイドブック等の出版・頒布支援について、学会理事会において検討を進める方針である。

### C. 研究結果

本取り組みにより、厚生労働科学研究班で得られた温泉療法の健康増進効果に関する知見について、学会員および関連分野への情報共有体制を強化することができた。学術集会においては、温泉利用の医学的意義や標準的プログラムに関する議論が活発に行われ、研究班と学会員との間で最新知見を共有する機会が創出された。

また、学会誌や広報媒体を通じた情報発信により、温泉療法に関する科学的エビデンスへの関心が高まり、関連分野との連携の必要性が再認識された。さらに、厚生労働省健康・生活衛生局、環境省自然環境局、大分県別府市など行政機関との意見交換を通じて、温泉利用を健康政策や地域保健施策へ活用する可能性について一定の方向性を共有することができた。

加えて、温泉地の医療機関や関連事業者との連携により、研究成果を実際の温泉利用プログラムへ応用するための課題整理が進んだ。

市民公開講座（2025 年 12 月 Web 配信）では、一般市民から温泉利用に対する高い関心が示され、科学的根拠に基づく情報提供の重要性が確認された。

### D. 考察

本取り組みを通じて、温泉療法の科学的エビデンスを学会が中心となって整理・発信することの重要性が改めて示された。従来、温泉利用は経験的価値が重視される傾向にあったが、近年では予防医学や健康増進の観点からもその有用性が期待されており、エビデンスに基づく情報発信の必要性はさらに高まっている。

特に、学会が研究班と連携し、学術集会や学会誌等を通じて継続的に成果を共有することは、研究成果の質向上だけでなく、温泉医学分野全体の活性化にも寄与すると考えられる。また、厚生労働省や環境省との協力を進めることで、温泉利用に関する知見を行政施策へ反映させる可能性が広がり、地域保健や健康寿命延伸への貢献も期待される。

さらに、温泉地の医療機関や関連産業との連携は、研究成果を社会実装へつなげるうえで不可欠である。今後は、標準的温泉利用プログラムの実践的評価や、多施設共同研究によるさらなるエビデンス蓄積が求められる。

また、一般市民への啓発活動を継続することで、科学的根拠に基づく安全で適切な温泉利用の普及につながるものと考えられる。

以上より、本研究班と学会との連携は、温泉医学の発展のみならず、健康増進、地域活性化、予防医療推進に資する重要な取り組みであり、今後も継続的な連携体制の構築が必要であると考えられた。

### E. 結論

厚生労働科学研究費補助金「温泉利用による健康増進効果及び標準的なプログラムの開発に資する研究」により得られる知見は、温泉療法の科学的根拠を明確化し、温泉医学の発展に大きく寄与するものである。本取り組みにおいては、研究班と学会が連携し、学術集会、学会誌、広報活動等を通じて研究成果を広く共有する体制を整備することで、学会員のみならず関連分野や社会全体への知見還元を推進する体制が確立できた。

また、厚生労働省、環境省、地方自治体、関連学会、温泉関連産業等との連携を進めることで、温泉利用の健康増進効果に関する科学的知見を、医療・保健・観光・地域振興など多方面へ展開する基盤形成につながった。さらに、市民公開講座や普及啓発活動を通じて、一般市民に対するエビデンスに基づく温泉利用の理解促進にも一定の成果が認められた。

今後は、標準的温泉利用プログラムの実践的評価とさらなるエビデンス蓄積を進めるとともに、学会を中心とした継続的な情報発信と多職種・多機関連携を推進することが重要である。これにより、温泉医学の社会的信頼性を高め、健康寿命延伸や地域活性化に資する持続的な取り組みへ発展していくことが期待される。

### F. 健康危険情報

なし

### G. 研究発表

#### 1. 論文発表

1. Yamasaki S, Kashiwado Y, Akiyama Y, Horiuchi T. Sleep quality and quality of life in older patients with hypertension after night-time hot spring bathing: a single-institution intervention study. Ageing International 2025;50:44.
2. Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T. Hot spring and sauna use for improving blood lipid profiles: A systematic review

and expert consensus on efficacy and recommendations. Complement Ther Med. 2025;94:103241.

3. Maeda T, Makino N, Ohmura K, Yamasaki S, Makishi M, Horiuchi T. Medical effects of balneotherapy for managing diabetes and obesity: a review. Int J Biometeorol. 2026;70(4):94.

4. Yamasaki S, Tokunou T, Kashiwado Y, Makishi M, Horiuchi T. Acute blood pressure responses and safety considerations in heat therapy interventions: A narrative review. Complement Ther Med. 2026;98:103341.

2. 学会発表  
なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし